

平成 29 年度おだわら市民交流センター UMECO 実施事業報告（記載例）

【評価点・・・5 優れている 4 やや優れている 3 概ね適正である 2 改善した方がよい 1 改善が必要である】

① 拠点機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	H28 実績	目標値	実績値	達成率 (%)	評価 点	成果	課題・対応
1	UMECO 企画展	きっかけ	市民活動団体が実施している社会貢献活動内容等を多くの市民に周知し、団体と市民がつながるきっかけを作る。	多目的コーナー及びホワイエを活用し、様々なテーマで展示を行った。 詳細は別紙 1 参照	開催回数 参加団体数	26 回	12 回	35 回 42	290		展示作品を見たことをきっかけに、少なくとも 3 人が団体に参加した。	企業の CSR 活動など、市民活動団体以外の活動 PR には至っていない。 入場者の満足度等を把握することが難しい。
その他	団体登録制度	—	市民活動団体が、活動エリアの予約などができるようにするとともに、団体の情報を把握することにより適切な支援を行う。	7 月から翌年 6 月までを登録期間とし、1 年ごとに更新手続きを行う。	年度末の登録団体数	396		415			いずれの指標も、前年度に比べ改善している。	取組みを PR し、より多くの団体の拠点となることを目指す。
	活動エリアの管理		市民活動団体が、無料で使用できる活動の場を提供する。	登録団体が、3 か月前から予約できる。なお、当日空いている場合は交流エリアとして誰でも利用できる。	活動エリア稼働率	21.67%		23.59%				

② 相談・支援機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	H28 実績	目標値	実績値	達成率 (%)	評価 点	成果	課題・対応
3	相談業務	全て	相談内容に応じ、適切な対応をすることにより、相談者の市民活動を活発化させる。	市民活動・NPO 法人・その他一般の方からの相談を、電話、メール、来館により受け、対応した。 詳細は別紙 2 参照	相談件数	61 件	36 件	52 件	144		市民活動未経験者の相談に対応し、数人が団体に加入した。 NPO 法人に関する相談等に対応し、団体の課題を解決した。	相談に対応できる人員が少ないため、次年度から人員を拡充し、受付体制を強化する。

③協働支援機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	H28 実績	目標値	実績値	達成率 (%)	評価 点	成果	課題・対応
5	地域活動 団体ネット ワーク 形成事業	実現	地域活動団体等と市 民活動団体をマッチ ングし、地域の活性化 や課題解決へと結び つける。	自治会等からの依頼に 応じ、適した市民活動 団体を選定、紹介した。 依頼の目的について は、全て音楽等のレク リエーションであつ た。 詳細は別紙3参照	実施回数	66回	60回	69回	115		自治会や福祉施 設等、様々な依 頼者に対応する ことができた。	依頼のある分野 や団体に偏りが 生じている。 UMECO側から事業のPRを 行うなどして、 新たな分野・団 体を開拓する必 要がある。
					実施団体数	6		6				

④学習・体験機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	H28 実績	目標値	実績値	達成率 (%)	評価 点	成果	課題・対応
8	市民活動 入門講座	きっかけ	市民活動を知らない 方を主な対象に、市民 活動に興味を持ち、活 動をはじめてもらえ るようなきっかけを 作る。	市民活動の基本的な内 容や、市民活動の楽し さを知ることができる、全2回の連続講座 を実施した。 開催日 ・1日目 7月8日 ・2日目 8月12日	開催回数	年1回	年1回	年2回	200		アンケートでは 92%以上の方が 市民活動をして みたいと回答し ており、実際に 数人が夏休みボ ランティア体験 学習に参加した り団体に加入し 活動を始めた。	受講後、参加者 が実際に市民活 動を始めたか、 十分に把握でき ていないことから、時間をおい てのアンケート の実施を検討す る。
					参加者数	105人 ※旭丘高校 で実施	20人	38人 ※2回延べ				
9	NPOマ ネジメン ト講座	実現	市民活動団体が知識 を身に付けNPO法 人化したり、NPO法 人としての事業計画 や会計に係るノウ ハウを習得すること で、団体の活発な活 動を促す。	「市民活動に必要なお 金の話」と題し、NP O法人になるための書 類の作り方や資金調 達の方法等について、専 門家を招き講座を開 催した。 開催日：2月22日	開催回数	年1回	年1回	年1回	100		NPOについて 知らなかった人 を含め約90% が、アンケート でNPOへの理 解が深まったと 回答した。	他組織が主催す る講座と内容が 重複しており、 ターゲットや内 容の精査が必要 である。また、 講義後の相談対 応にも力を入れ る。
					参加者数	22人	30人	17人	57			

⑤交流・コーディネート機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	H28実績	目標値	実績値	達成率(%)	評価点	成果	課題・対応
16	まちづくり交流会 声の万華鏡	行動	特定のテーマに沿った事業を展開する中で、市民活動団体同士で情報交換を行い、新たなまちづくりのきっかけをつくる。	「文学」をテーマに、第2回声の万華鏡を実行委員会制により開催した。 開催日：7月9日 内容：舞台朗読・紙芝居・落語・民話の語りなど	開催回数	年1回	年1回	年2回	200		事業を通し、団体同士の情報交換ができた。また、他地域からの出演者もあり、地域を超えての交流もできた。	次回のさらなる協働に向け、企画中である。
					参加団体数	22	25	24	96			
					参加者数	227人	150人	200人	133			
19	新春交流会	行動	市民活動団体と連合自治会長が一堂に会し交流を図ることで、市民活動団体同士及び市民活動団体と地域活動団体とのつながりを生み出す。	1部は市民活動団体の活動周知、2部は参加者同士の交流が図れるよう、歌や踊り、福引を交え工夫して開催した。 開催日：1月20日 内容：1部 団体紹介 2部 交流会	開催回数	年1回	年1回	年1回	100		参加者同士で活発な情報交換が行えた。	アンケートの結果から、市民活動団体側に比べ、自治会長側の満足度が低く、またアンケート回収率自体も低かった。
					参加団体数		45	42	93			
					参加者数	152人	120人	128人	107			

⑥情報の集約・発信機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	H28実績	目標値	実績値	達成率(%)	評価点	成果	課題・対応
25	UMECOだよりの発行	きっかけ	多くの市民に市民活動への興味を持っていただけるようなイベントやボランティア情報を提供し、市民活動の担い手を増やす。	市民活動に直接つながる情報だけでなく、市民が関心を示す社会的な記事、季節感ある記事なども掲載するとともに、見やすいレイアウトを心がけるなど、より多くの市民に読んでいただけるよう努めた。 偶数月隔月6回発行	発行部数	各2,000	各2,500	各2,500	100		より多くの方に読んでいただけるよう努めた結果、UMECO事業への参加につながったケースも見受けられた。	読者の評価を確認する方法を検討する。 市民活動に直接つながらない記事について、読者の反応を見極めながら、継続するか検討を行う。